

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームぬくもりの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県南陽市柵塚929番地
記入者名 (管理者)	竹田 洋子
記入日	平成19年 11月 2日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	散歩や買い物等の機会を増やし、近所の方々と触れ合う機会を多くもつようにしたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	日々の関わりのなかで、理念が実践できているかを確認しながらケアを行ないたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	ホーム便りは年3回発行することになっている。すでに2回発行した。地域との関わりを深める方法について今後さらに考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	今後も職員が率先して挨拶をおこなっていききたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域との交流について、どんな方法があるか今後もみんなで考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の相談に応じたり、見学を受け付けて、事業所の取り組みや認知症について理解してもらえるように努めている。	○	4月に開設したばかりで相談への対応がほとんどなので、今後は地域に貢献できることが他にないか考えて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、改善点について会議で話し合っている。	○	改善点についての話し合いを今後さらに深め、実践して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際について報告や話し合いの場をもうけており、会議の結果については部署会議で報告し、話し合っている。	○	区長さんの意見により地区の老人会の活動に参加する機会を得ることができた。今後も会議での意見をサービスの向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他にも、分からないことがあれば、直接市に出向いたり、電話等で相談している。また地域包括支援センター開催の講演会の知らせを受け参加した。	○	市主催の会議や講演会等に今後も参加する機会を得るように、普段から連絡を取り合うようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、必要な人がいれば活用できるように努めている。	○	研修会等あれば参加しさらに理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修で学んだことを部署会議で伝達し、職員が全員理解するよう努め、虐待をおこなわないようにしている。	○	利用者の体の変化に気づいた時は、みんなに伝え情報を共有する等、常に注意深く見守るようにしている。虐待防止について考える機会をもうけ、今後も全員で勉強していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>契約時は見学もしてもらい十分に納得した状態で契約するようにしたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>利用者の声や行動等を注意深く受け止め、不満等を解消し満足して過ごせるようにしたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>報告の方法について、より良いものをみんなで考えて行きたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族が職員に何でも話せるような関係作りが大切なので日頃から信頼関係を築くように努力していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>4月に開設したばかりで、まだ職員の交代はなく、馴染みの関係が築かれている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>できるだけ、外部の研修に参加できるように配慮している。また、全員参加の施設会議で、学習会を行い、それぞれがレベルアップできるようにしている。</p>	○	<p>研修後は他の職員に伝達研修を行い、全職員が知識を得ることができるようにしている。それを実際の仕事に活かしていけるようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>置賜ブロック会議に参加している。また、参加できなかった職員に対して、会議の内容を伝達している。</p>	○	<p>ブロック会議で得た情報や知識をケアに取り入れているが、今後も他の事業所の良いところを吸収し活かしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場単独での親睦会のほかに、法人全体の互助会でも交流会や親睦会、旅行会等開催し気分転換をはかり、ストレスを軽減するよう取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>上期と下期に分けて、課題目標管理表に各自目標を設定し、仕事に取り組んでいる。半期ごとに実績や頑張りを評価し各自が向上心を持って働けるように努めている。また、介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得を支援している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前は本人と会い生活状況や心身の状態を把握している。利用に当たっては見学をした上で、不安や思いを聴き安心してもらえるように努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族と面談し、家族の苦労や不安・悩み・これまでのサービス状況について十分に話を聴き受け止める努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で、他のサービスの利用のほうが望ましい時は、他のサービスを紹介し、調整を行なっている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に行く中でその方の持っている能力や個性を引き出せるように、また本人が生きがいを持てるような機会作りに努めている。一緒に外出する機会をもうけたり、また日々の生活の中でも共に喜び、楽しみを味わうことができるように努めている。	○	昔ながらの風習や生活の中の知恵など利用者に教えてもらう場面は多く、そのような機会が得られるように工夫して声がけ等おこなっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族が頻繁に来所されているため、職員と家族は顔を合わせて話をする機会も多く、何でも相談できる信頼関係が構築されている。	○	利用者が普段どのような生活をしているかを家族に知ってもらったための一つとして、食事会等の行事に招待する計画をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠がちな家族にも積極的に連絡をとり関係が途切れないように努めている。	○	お盆やその他の行事のときに、外出や外泊を勧めるなどして家族と一緒に過ごす機会をより多く取り入れるように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす馴染みの知人、友人への電話連絡を手伝ったり、合いに行けない場合は訪問していただけるように働きかけている。	○	これまで大切にしてきた馴染みの人や親戚に対して、年賀はがきを出すように支援する予定である。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂での座る位置に配慮したり、お茶や食事の時間に職員が同席し一緒に会話に入り関係が円滑になるように働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところサービスを終了した人はいない。	○	サービスを終了する方が現れた時は、行事等に誘って関わりを継続したり、相談があれば応じていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一言一言に耳を傾け、言葉だけでなく表情からも情報を得るようにしている。また、利用者の家族との情報交換をするようにしている。	○	本人がどのような生活を望み、何をしたいか等関わりの中で知る努力をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどのような生活をしてきたか本人と話をして情報を得るようにしている。家族、友人、知人が来所時に情報収集して把握できるようにしている。	○	生活歴や馴染みの暮らし等、本人や家族、面会者と話し、情報収集している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一日のリズムを把握し、体調の変化時すぐ対応できるよう努めている。ADL面や家事などできることは行ってもらい、できないところを援助するように心がけている。	○	個人を尊重しながら、その人の持てる力を活かし、できない部分について援助するようにしている。家事など一緒に行なっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に職員間で話し合い、意見交換、モニタリング、カンファレンス等を行なっている。本人、家族、職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	○	定期的にカンファレンスを行なっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの要望を取り入れつつ、介護計画の見直しを行なっている。	○	気づきを大切にし、状態の変化があれば見直しを行ない、現状に合った介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々人の1日の食分量、バイタル、排泄回数等を日々記録するようにしている。暮らしの様子、発言の詳細に記録している。	○	ケアの実践や結果が分かりやすいよう記録の工夫をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地域で催し物があれば声をかけて頂くように依頼している。	○	老人会の映画鑑賞会では地域の公民館に出かけた。今後も地域の行事等に参加したり、図書館等の地域資源を利用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	月に1度訪問していただき、理容サービスを提供している。	○	今後も理容サービスが継続できるように調整して行きたい。他のサービスも活用できるよう検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところそのような事態は発生していない。	○	今後必要となった場合、地域包括支援センターと協力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院の医師がかかりつけ医になっており、本人・家族の希望もあり、継続的な医療を受けられるようにしている。	○	同法人の病院への受診は職員が通院介助を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門の医師の診察を定期的に受け、利用者の状態を報告し、適切な助言をもらっている。	○	認知症の専門の医師により定期的に適切な指示や助言をもらっている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の状態の変化に応じ、訪問してもらっている看護師より助言をもらいながら健康管理に努めている。	○	敷地内の病院と連携しており、日中・夜間の急変時の連絡体制は整っている。看護師との連絡を密にしていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院関係者と情報交換を行いながら、本人へ面会に行き早期に退院できるよう努めている。	○	入院時は頻繁に見舞うようにし、医療機関と家族と情報交換を行い早期退院できるよう努めている。今後も早期退院に向け医療機関と連携していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象となる利用者がおらず、終末に対する対応方針について、本人や家族、医師等話し合いは行なわれていない。職員間では、本人と家族の意向に合わせ、かかりつけ医とも相談し支援していきたいと考えている。	○	終末期には本人と家族の意向を大切にし、安心と納得を得られるよう支援していきたい。職員のケアの統一を図りたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時はすぐ対応できるよう連絡体制を作り、取り組んでいる。	○	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員と連携を図り安心して終末期が過ごせるよう配慮していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者のこれまでの生活環境を調べ、支援の内容や注意点など情報提供してもらい、ダメージを最小限にできるよう努めている。	○	本人に関わる関係者間で情報交換を行ない、ダメージを防げるようきめ細かい連携を心がけたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに注意して、本人の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないように配慮している。それぞれの利用者の性格やその時の状況に合わせた言葉遣いや対応をしている。また、個人情報はもらさないように取り扱いに注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけを行ない、選択できる場面や環境を作るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせ支援し、ある程度一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしないようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際は本人の意向で服を決めている。理容・美容は家族の協力が得られる利用者は本人の望む店にいける様に支援している。また床屋さんの出張サービスを行い希望にそった髪型にしてもらえるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てるとき利用者と相談し、希望のメニューを取り入れるようにしている。また調理や片付けや食器拭きを、利用者と共にこなしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の方に本人の好みのものを持ってきてもらえるように協力を得ている。日頃の会話の中で本人の好みを情報収集し、個別に対応し満足していただけるよう努めている。	○ 本人が望むものは準備し喜んでもらえるように支援している。今後さまざまな希望に対しても出来る限り応えていけるように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。失禁した場合でも、周囲に気づかれぬように心配りし、手早く対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日に関わらず、主に午後の時間に入浴をおこなっている。また、一人ひとりに合った方法で心地よく入ってもらえるように支援している。	○	状況に応じ夜間に入浴をおこなう場合もある。今後も一人ひとりに合った方法で心地よく入浴できるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休めるように、なるべく日中は活動等に促し生活リズムを整えるように努めている。畳のスペースでそれぞれ心地よく休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から話を聴き生活歴を活かし、その方に合った役割・作業・活動を提供している。月ごとに外出する機会を設け、季節を肌で感じてもらうように計画を立て支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する力があり、本人が希望する場合は、少額を手元に置き必要に応じ使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添って外への散歩や買い物へ付き添いを行なっている。	○	希望があれば1日に数回散歩に出かけている。今後も一人ひとりの希望や状況にあわせ、戸外に出かけられるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望等を聞き、実現できるように検討している。	○	地域の観光地や飲食店へ出かけている。今後も希望を聴き外出を支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも話等が出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	都合のいい時間帯に訪問することが出来、居室や食堂で気軽に過ごして頂けるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し職員の意識を高め、日々のケアを振り返り身体拘束が行なわれていないかを点検している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	外出を希望された時はできる限り職員が付き添い外出している。気持ちが不安定な状態で外出の希望がある時で、どうしても対応できない場合は、別の興味あることに誘いかけ、気持ちが落ち着くように対応している。	○	気持ちが不安定で落ち着かない状態の時、その理由を把握し、柔軟に対応し鍵をかけないケアに努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は本人の状態や気分に合わせて部屋やデイルームで自由に過ごしてもらったり、プログラムに参加してもらいながら、さりげなく状態把握をしている。夜間は定時に巡視し安全確認を行なっている。	○	事務作業も利用者と同じ空間で行ないながら全員の状況を把握している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬、刃物は利用者の目につかない決まった場所に安全に保管している。	○	注意の必要な物品を把握し管理方法の取り決めに明確にする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	考えられるリスクを取り上げ職員全員で知識を学ぶ機会を設けた。ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、記載することで事故防止に努めている。	○	万が一事故が発生した場合の対応マニュアルを作成し、迅速な対応ができるように職員全員が周知する。定期的に見直しを行い事故防止に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	学習会は行なっているが、実際の応急手当や対応の訓練は実施していない。	○	敷地内に病院があり、急変時や事故発生時は連携できる体制が整っているが、すべての職員が対応の仕方を学び、応急手当や初期対応について定期的に訓練を行い技術を身につけるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の避難訓練が年2回予定されており、すでに火災の避難訓練が行なわれた。	○	法人全体の災害マニュアルはあるが、今後は事業所独自のマニュアルを作成していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	新たに起こり得るリスクが取り上げられた場合には速やかに家族へ連絡し話し合いの場を設けている。	○	起こり得るリスクについて個別的、定期的に見直しを行なっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い異常があれば、再検したり早めに受診している。変化があれば、申し送りノートに記入したり記録に残し情報を共有している。	○	体調に変化が認められ、受診の必要性がある時は、すみやかにかかりつけ医の診察を受けている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、すぐに確認できるようにしている。処方内容の変更があれば、状態観察を行い受診時に医師に報告している。服薬チェック表を使用し、誤薬のないように注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や野菜を多く提供したり、散歩や、体操等で適度な運動を取り入れている。毎日排便の有無について記録し、一人一人の排便のサイクルを把握している。	○	食事や運動でも対応困難な便秘については、かかりつけ医と相談し下剤等でコントロールしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけを行ったり、一人ひとりの状況に応じて、義歯のブラッシング介助を行なっている。	○	口腔状態に異常や心配なことがあるときは、すみやかに歯科受診している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせて食事量、食事形態を調整し、摂取量を記録している。それぞれの好みのものを献立に取り入れ、定期的に管理栄養士よりアドバイスをもらっている。	○	水分摂取が不十分な利用者については、ヨーグルトやゼリー・フルーツ等で補う等工夫している。今後も管理栄養士からのアドバイスを参考にしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルスの学習会を行なった。今後職員も利用者もインフルエンザ予防接種を受ける予定である。	○	今後、疥癬・肺炎・MRSAの学習会を開催する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は必要な分だけ買うようにし、使いきれなかったものは、賞味期限を白板書き出し、わかるようにしている。	○	一日に一回、冷蔵庫内を点検している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはプランターで花や野菜を栽培し、利用者の方と一緒に手入れすることで、親しみやすく明るい雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂へは観葉植物や花を生けて季節感を取り入れ明るい環境づくりに努めている。また利用者が共同制作した貼り絵を掲示している。	○	冬期間は、こたつを出し温かみのある空間を作っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂へは畳のスペースがあり横になってテレビを見たり一休みできる空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた筆筒や鏡・家族の写真・時計など部屋に持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に温、湿度計を設置し調整を行っている。トイレは不快な臭いがこもらないよう消臭剤を設置しその都度換気を行った。	○	温度調整は利用者の好みに応じて調整行なっている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には全て手すりがあり、杖歩行や、少々ふらつく方でも自分の力で移動している。不安な方のみ、車椅子や、歩行器を使用している。	○	わずかな段差等、生活空間で転倒やケガの原因になる箇所がないかを点検し話しあっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋入り口の床に、色テープをはり、自分の部屋であることを認識してもらう。名前の札を作り、部屋を間違えないように対応		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先でプランターで野菜を栽培し、苗植えから水やり、収穫まで利用者と一緒に行えるよう努めている。また目の前に中庭があり桜から紅葉へと季節感を味わうこともできる。	○	すぐ近くに田園が広がり、田植えから稲刈りまでの変化を観察しカエルや虫の音を聞き季節感を楽しむことができた。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内に病院や歯科や老人保健施設があり連携を密にしている為、健康面・医療面ですぐに対応でき、利用者様は安心して生活を送ることができます。食事面では利用者様の嗜好や栄養のバランス・季節感を考えながら献立を作り、食事を提供しています。外出して楽しめるようなレクリエーションを月一回行っています。